



成田ファーム  
成田和彦さん

茎までおいしい！  
露地ものならではの  
甘みを感じてください



明治30年から続く5代目の成田和彦さん。  
JAいしかりのブロッコリー部会の部会長を務め、  
10年ほど前から息子さんも一緒に野菜作りに  
取り組んでいます。

## 八幡町 高岡の ブロッコリー

今や、食卓の定番野菜となったブロッコリーですが、人気に火が付いたのは、とあるテレビの情報番組がきっかけだったとか。  
カリフラワーに代わり市場を席巻するその野菜を、石狩でも積極的に栽培しようと「ブロッコリー部会」が立ち上がったのは20年前のこと。以来、部会長の成田和彦さんの畑では、石狩の地に適した品種を探す試験栽培が続いています。

気付けば、市内の作付面積は約130haに。成田さんは「道内でも有数の規模を誇ることを、市民の皆さんはご存じないかも。もっと宣伝が必要ですね」と笑います。  
昨年の猛暑に比べ、今年は暑さがやや穏やか。冷涼な気候を好む野菜だけに成田さんも「出来は上々。甘くておいしい石狩産をたくさん食べてほしいです」とアピールします。



石狩で栽培するのはピクセル、おはよう®、トップスター、ジェットドームの4品種。緑黄色野菜の“王様”とも言うべき存在で、ビタミンやミネラルが大変豊富です

塩ゆでのほか、  
**天ぷらや  
素揚げも  
おすすめ♪**

青くて、  
花蕾(蕾の集合)の  
しまりが良いものが  
**新鮮**

収穫期は  
**6月下旬～  
11月上旬**

**ブロッコリー  
memo**

# おおぞら児童館

## たくさんの「楽しい」をありがとう!

昭和54年4月4日、花川南地区に誕生したおおぞら児童館が、老朽化などの理由により本年9月30日をもって43年の歩みに幕を閉じます。たくさん子どもたちが通った児童館の思い出を、長年勤めた職員と利用者がそれぞれ熱く語ります!

☎ 子育て政策課 ☎ 72・3631



おおぞら児童館の名物・版画カレンダー



黄色の外壁が目印の建物



廊下に飾られた感謝のメッセージ



放課後児童クラブ「おおぞらクラブ」の部屋



1階のホール。ここで児童館まつりを開催!

### 児童館職員として10年を過ごした 谷口ゆかりさん

この仕事に就いて18年。うち10年をおおぞら児童館で過ごしました。

ここはいつもにぎやかで、特に児童館まつりには100人以上も子どもが集まりました。お化け屋敷があったり、外で大きなシャボン玉を作って遊んだり、かき氷やフランクフルトなどを用意したのがとても懐かしいです。

「おおぞらと言えば版画カレンダー作り」という時代もありました。これは、放課後児童クラブの対象が小学3年生までだったころの話。3年生になると卒業記念に、5人1組くらいでこのカレンダーを作ったのですが、それを市内の公共施設にも配って、大変喜ばれたものです。

おおぞらは、子どもたちに希望を与える場所でした。何年前か、ここで読んだ「ナイチンゲール」をもう一度読みたいと訪ねてきた女子高生がいます。彼女は、その本に出合って看護師を志したそうで、その話には私はうれしくて涙が出ました。ここには、そんな子どもたちの夢がいっぱい詰まっています。そのことを誇りに、閉館の日を迎えたいと思います。



### 親子で児童館を利用した 佐藤亜希子さん

児童館の誕生した年に生まれた私は、物心のつかないうちから母に連れられ、ここを利用していました。

母によると、児童館の行事で石狩浜で土器を作ったことがあるそうで、私は覚えていないのですが、その土器がずいぶん長い間、わが家にあったとか(笑)。

私自身の記憶はというと、図書コーナーで本を読んだり、一輪車で遊んだことを覚えています。そしてとりわけ懐かしいのが版画カレンダー作りです。パレンを使って刷る作業がすごく楽しそうで、毎年その様子をそばで見ている、私も早くやってみたい、と憧れたものです。

憧れたと言えば…おおぞらの先生の影響もあって、私は幼稚園教諭になりました。そして今は、「子育てひろばりとりぎっず」で働いています。

私はおおぞらにご縁があったようで、結婚してから子どもが生まれると、母としてもお世話になりました。当時、午前中に公園へ行ってもママ友がいないんです。どこにいるんだろう? と思ったら、皆おおぞらにきました(笑)。それくらい大勢の親子で、にぎわっていましたね。

